



スコビーの膜と白粉花への実験を重ねたフィールドワーク

お茶きんちゃく_ver2

制作期間：2022/07~09
担当：個人制作



成果物1への取り組みを通じ、可能性を感じた私は、実際にスコビー入手しコンブチャと白粉花を育てながら実験を繰り返した。最終的に1月で5枚ほどの膜を生成し、そこから複数の実験を行った。



発表では実際に膜を展示し、実際に水に戻してふやける様子やフィルムとして活用できた場面を再現した。
「なにこれ！？」という驚きの声を多数いただき、初めての体験をしていただいた。

膜を活用するために


菌できんちゃく、未来にあいちゃく。
おちゃきんちゃんちやく

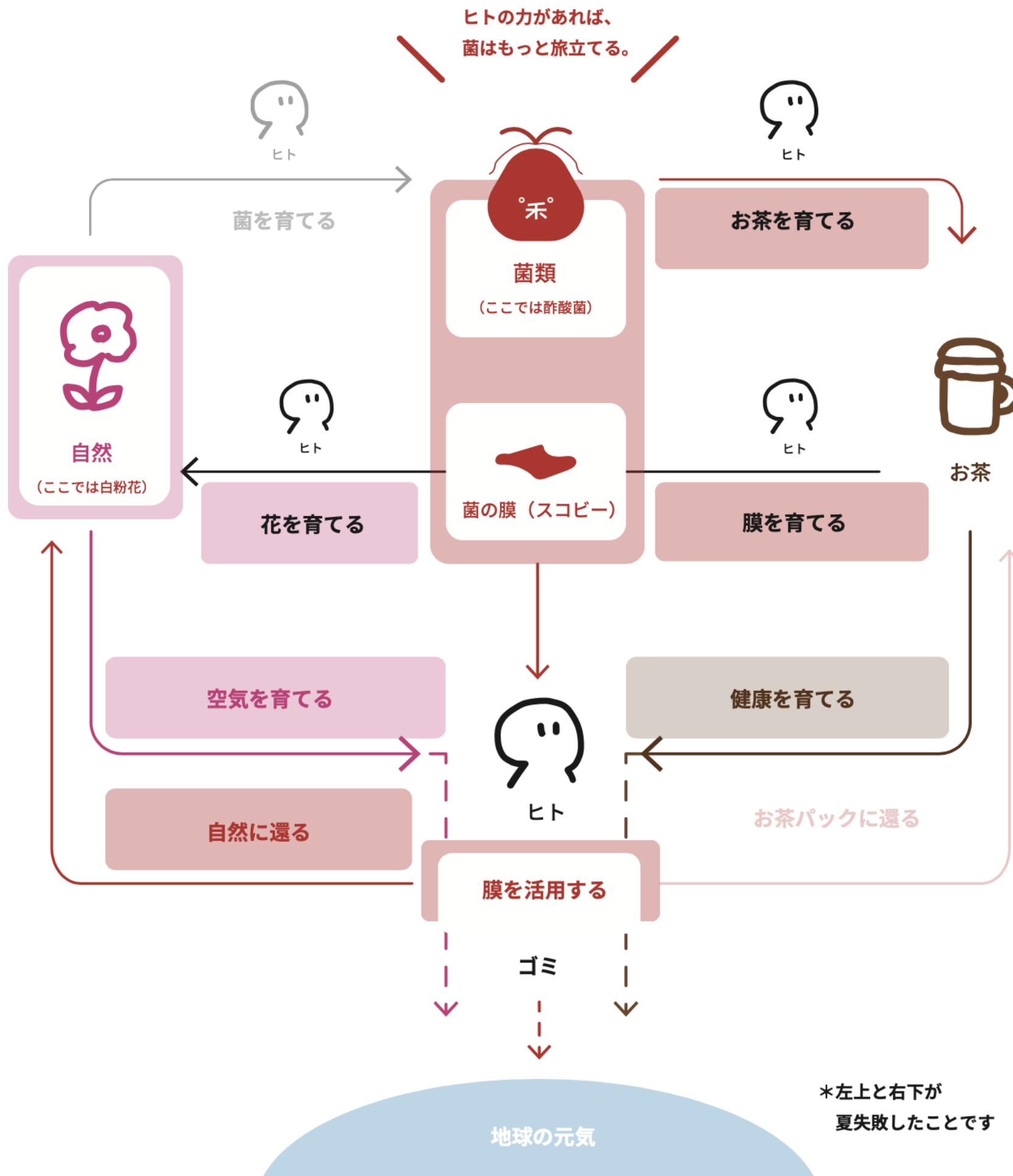
目指しているのは
菌類と人間と自然が、
お互いに必要とし合う仕組み作り。

自然に還る酢酸菌の膜は、フィルムやラップ、マイクロプラスチック・布といった工業製品に変わる力を
持っています。しかし、菌類の活用は限られた区間の中でしか行われておらず、また人間の活動によって関係性が分断
されているため、菌類が自然と戯れていくには、人間の
支えが必要です。

ターゲットは、菌類と自然たち。

**菌の旅行をお手伝い
できるようなものにしたい。**

だから。ターゲットは人間ではなく、菌類です。
菌類が人間の活動によって触れられていなかった自然との
つながりを取り戻し、いろんな場所へ羽ばたけるような
そういうキットか何かを作りたい...。



実際に膜を生成し、
同時に白粉花を育てながら、
関係図を作成。

まずは自分が知らなくてはならないということで、ひたすら膜を生成し
実験を重ねた。その結果、

膜が持つ伸縮性や粘着性を発見。
またお花からの膜生成は不可能だということや、お茶パックとしては向か
ない性質であることを知覚。
社会にとって、本当に必要な循環の形は何かを模索する。

実験過程はこちら

私の研究について

菌類と人間の新しいインタフェースを作りたい

コンブチャ

膜だけを使う or お茶だけを飲む
膜は捨てられている？

一緒に過ごしてみることに

菌と人間

- ・菌は人間の活動によって分断されている
- ・菌は人間の興味や動きでもっと移動することができる

スコビー菌の性質

- ・水で戻る：かけらを集めて再構成もできるかも
- ・弱い粘着力がある：水に浸して乾かすと復活する？
- ・器によって大きさを可変できる

菌と自然

- ・自然に還る：上たり木に貼ったりすると消える…
- ・白粉花+少しのお酢で、発酵が起きる：膜もできる、かも

菌類の動きが見え、形に残り、触れられるという点で、
目には見えにくい微生物を感じやすい存在でもあった

これまで人間への効力を中心に着目されていた

→人間の視点を変えれば、

コンブチャは菌・微生物との多様性・持続性を考える、新しいツールになるのでは？

一緒に過ごしてみることに



コンブチャから膜を作り、お茶パックを作る



白粉花から膜を作る/膜から白粉花を育てる



膜だけで発酵させてみる：カビは生える

自然の中でシール遊びをしてみる

フェイスパック × お茶のサスティナブル美容

再利用可能な食べれるフィルム/ラップ

膜でやったこと

- ・おにぎりにして食べてみる
- ・畳んでさらに広げてみる
- ・お茶を包んでみる
- ・木に貼り付けてみる
- ・花を包んでみる
- ・そのままお茶に入れて再度発酵させてみる
- ・植木鉢に入れてみる
- ・壁に貼り付けてみる
- ・字を書いてみる

白粉花でやったこと

- ・終わった花をお茶に入れて膜を作ろうとしてみる
- ・洗って乾かしてドライフラワーの状態で膜にしてみる
- ・膜で育ててみる

人間の力があれば、菌類はもっと移動することができるかもしれない

観察するだけでも環境を表す指標になるのでは